



ふくしまからはじめよう。



特集

新しい 福島から ものづくり

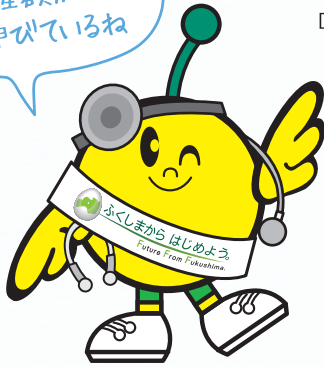
～世界をリードする福島の医療関連産業～

福島県は国内トップクラスの「医療機器生産県」です。

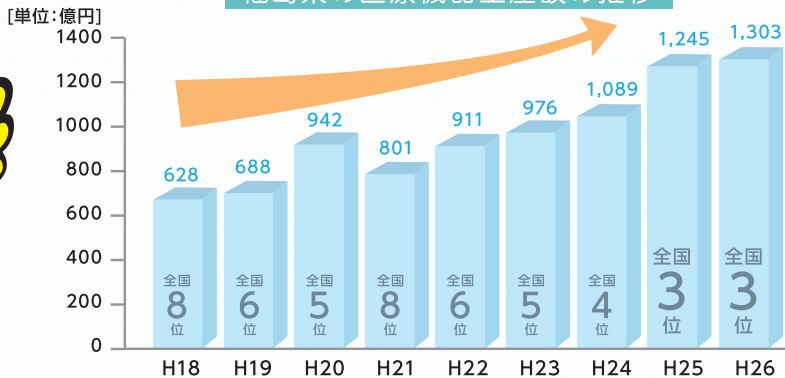
医療機器生産額は全国第3位。しかも、生産額は毎年着実に増加しています。

県では、県復興計画(第2次)の13の重点プロジェクトの一つに「医療関連産業集積プロジェクト」を掲げています。今回は、医療関連産業に取り組む企業の様子とともに、医療産業への新規参入や人材育成など、一貫して応援する取り組みをご紹介します。

医療機器
生産額が
毎年伸びているね



福島県の医療機器生産額の推移



出典:厚生労働省「業事工業生産動態統計」

知事
メッセージ

新たな時代をリード
する医療関連産業
福島県知事 内堀雅雄

福島県が力強い復興を成し遂げるためには、将来の成長産業を積極的に応援していくことが極めて重要です。

本県には、大規模な医療機器製造企業を始め、独創的な医療機器や、その部品、材料を生産する中小企業が集積しています。さらに、県内の大学や研究機関と連携した最先端の技術開発なども行われており、このような産学官連携による協力的体制が本県の強みとなっています。今後福島が誇るものづくりの技術を応用した医療機器の開発支援や企業誘致の促進、人材育成など、さまざまな取り組みを通して「医療関連産業の一大集積地」を目指してまいります。



「継続と進化」そして「人とのつながり」

シンテック

(いわき市)

代表取締役
あかつかずぞう
赤津 和三さん



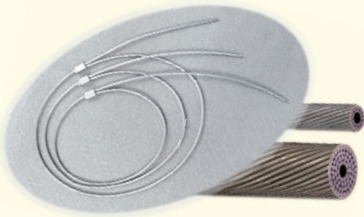
会社設立当時は、携帯電話や電波時計用アンテナを製造していました。歯の矯正用のワイヤー開発をきっかけに医療関連の仕事を始めました。医療機器を製造し販売するためには、多くの許認可が必要となるので、なかなか苦労しました。

現在は、チタンを使用したマイクログライドワイヤー（下図参照）の事業化に取り組んでいます。福島県立医科大学と連携した研究開発や、外国企業との取引も行っています。

モットーは「継続性と進化を目指す」とこと、「人とのつながりを大事にすること」ですね。続けることが大事ですが、そこに、

一工夫、二工夫を加えることで新しい製品につながっています。また、人との出会いを大切にしているからこそ、うちのような少人数の企業であっても、さまざまな研究開発に結びつくと思います。

いわき市内に新しい工場を建設する計画があるのですが、少しの人数かもしれないですけど、地元で働く場所を提供していきたいです。



体内に固定するケーブルの材料にチタン系合金を使用し、特殊な製法によって、伸縮性やしなやかさ表面のなめらかさを向上させたケーブルを開発。これまでの体内固定ケーブルは、伸縮性が全くないため、体型の変化に対応できないという課題を解決。

介護現場でロボットを活用

特別養護老人ホーム
あつかし荘
(桑折町)

介護士
さいとうみつり
齋藤 光永さん



6月から介護支援ロボット「ロボットスーツHAL」を試験的に導入しています。ベッドから車いすへ移乗するとき、腰の負担が軽くなり、男性にとっても助かります。こういうロボットがあると、介護職員として長く働くことができそうです。



「ロボットスーツHAL」を腰につけての介護

介護支援ロボット導入を応援しています

県では、介護職員の労働環境改善を図るために、高齢者介護施設を対象に介護支援ロボットを試験的に導入しています。また、労働負担の軽減効果などを検証するとともに、見学会を開催します。

問 県庁高齢福祉課
☎024(521)7164

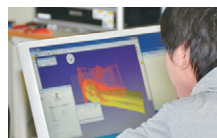
エンジニアを目指します

テクノアカデミー
郡山 (郡山市)

精密機械工学科
ししどりょうた
宍戸 亮太さん



3Dプリンターを使った機器の設計を学んでいます。自力では設計しにくい立体物も3Dスキャナを活用して効率よく設計できるのが魅力です。県内企業に就職して、ものづくりを通して社会に貢献したいです。



医療機器加工のシミュレーション中



CAD・CAMの授業風景

即戦力となる人材育成をしています

テクノアカデミー郡山では、医療機器やロボット産業に関するカリキュラムと3Dプリンターなどの機器をいち早く導入して、産業界の即戦力となる人材を育成しています。

問 県テクノアカデミー郡山
☎024(944)1663



特集



ある眼科の先生から「患者さんの負担を解消できないか」とヒントをいただいたのが「ドライア

平成20年のリーマンショックで、製造業の海外移転に拍車がかかり、影響を受けました。本社を置いていた川俣町の商工会から、県の「医療福祉機器研究会」のチラシが届き、「海外の影響に左右されず国内でしっかりものづくりをしていこう」と思っていたので、さっそく県の薬務課を訪ねたのがきっかけで参入しました。

白河に医療関連産業を定着させたい

エコー電気

(白河市)

代表取締役
みやざき しずこ
宮坂 静子さん



「の検査で使う「涙液量」を測定する機器です。従来は測定器を下眼の中に5分間入れ、痛みにも耐える必要がありました。

30年来の粘着テープの加工技術を生かし、薄い異素材を組み合わせた「抜き加工」をすることで、痛みがなく、検査時間を5秒に短縮する商品ができました。

現在は、震災後異動した川俣町のメンバーに加えて白河市で新戦力を迎え、活躍してもらっています。全社一丸となって、福島県の医療関連機器産業を盛り上げたいと思います。

細かい切り込みが入った薄いプラスチック板の間に、スポンジ状の素材を挟んだ測定器。下眼の涙液にあてると、涙が毛細管現象で吸い取られます。測定時間5分を「5秒」に短縮。従来の方法に比べても統計上高い相関性を示しています。

涙液分泌機能検査機器

SMTube

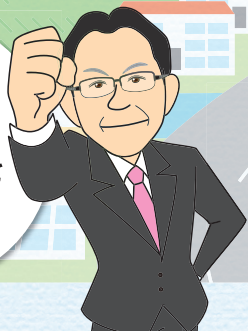


医療関連機器の開発を応援します

県では、医療・福祉機器関連産業の集積を一層強化するため、平成24年度から企業が実施する医療機器などの製品化を支援する補助制度を設け、これまで59件の支援を行っています。また、県内に工場を新・増設する補助金制度も平成26年度より設けており、これまで13企業に対し支援しています。

県庁医療関連産業集積推進室 ☎024(521)7282

ふくしまの新しいものづくりを応援します!



医療機器産業を一体的に応援します



イメージ

国内オンリーワンの施設なんだって!



ふくしま医療機器開発支援センター

ふくしま医療機器開発支援センターは、電気的試験や物性試験、生物学的試験など医療機器の安全性に関する各種評価試験を行うほか、医療機器メーカーと県内ものづくり企業のマッチング、新規参入企業への支援、医療従事者を対象としたトレーニングなど、医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する国内初の医療機器開発支援拠点です。

現在、郡山市（旧農業試験場跡地）に建設中で、平成28年度のオープンを目指しています。



施設内に整備される模擬手術室

県庁医療関連産業集積推進室 ☎024(521)8536